

Educo

地球時代の教育情報誌 エデュコ

No.24

2011年 冬

2 巻頭インタビュー

キャスター

草野 仁さん

4 | 知っておきたい教育 NOW
これからのキャリア教育のために
藤川 大祐
キャリア教育の充実に向けた 7 つの話
市野 敬介

8 | きょういく見聞録
Open Mind
～ロッテルダム日本人学校での
交流活動を通して学んだこと～
井出 岳

10 | 地球となかよしトピックス
みんなで育てた芝生の校庭
思いっきり走り回ろう！
静岡市立藁科中学校

12 | インフォメーション 北から南から

14 | 地球となかよしメッセージ 2010
入賞作品発表

18 | 地球となかよしゼミナール
エネルギー環境教育の充実と
環境への意識の高まり
広島県尾道市立高見小学校

19 | コラム いまどきコドモ事情
「進路」思い詰めないで
香山 リカ

20 | ほっとな出会い
フェンシング選手
太田 雄貴さん

くさの
草野ひとし
仁さん（キャスター）

人の話をきちんと聞き取って 自分の考えを話すことが大事です。



PROFILE

草野 仁

1944年生まれ。長崎西高校、東京大学文学部卒業後、NHK入社。主にスポーツ・キャスターとして、オリンピックを初め、さまざまなスポーツの実況を中継。また「ニュースセンター9時」などのキャスターも務めた。85年からフリーのキャスターとして活躍。人気テレビ番組「世界ふしぎ発見!」では、司会を25年続けている。

草野さんの子ども時代についてお聞かしてください。

私の父は明治生まれの大学教授で、大変厳格でした。私はやんちゃ坊主でしたから、よく拳骨をもらっていましたよ。そんな父に、小学校卒業の際、「これからは毎日、学校で起きたことを詳細に私に報告しなさい」と言われました。そうすると大抵今日はこういうことで先生に叱られた、という報告ばかりで、それはお前が悪い、先生の言うとおりだ、と父からもまた叱られるんですよ（笑）。

でも、ある日、「ちょっと待て、先生の言うこともあまり納得できないな」と父が言うんです。お前の言

うことのほうが間違いないかもしれない。そこで気がついた。父は、自分の話をしっかり聞いていて、心配してくれている。正直にきちんと話せば、それに反応して、正当な、客観的な評価を下してくれるんだと。父親に対する信頼感が一気に深まりました。そして、自分の言いたいことをきちんと理解してもらうように話すという習慣が、この毎日の報告を通じてできあがっていったんだと、後から振り返ると実感します。ちゃんと理を通して話すことの大切さを、父に学んだんです。

ボーダレス化がさらに進む現代社会ですが、日本人の「話す・聞く」能力についてどうお考えですか。

日本では、「話し言葉を使って自分の気持ちを伝える」ということが、長く続いた封建制度、上意下達のシステムの中で、ほとんど行われていなかったんですね。日本の社会は、人と違つてはいけないというか、同調しながら、あまり事を荒立てないでやっていこうとする。何かこれは問題じゃないかと思えることがあつたとしても、表立ってこれはおかしいという、自分なりの意見を言う人を異端視しがちでした。

一方、欧米では、人の言うことをしっかり聞き取り、自分の考えを言う、「意見を交わす」教育が、就学前から一貫して行われています。欧米は、もともと肌や目や髪の色も違

う人たちが渾然一体となつて社会や国家を形成してきました。そういう中では、何か社会的な問題が起きたときに、自分がどう考え、どう行動したいということを、みんなの前で論理的にわかりやすく、明快に話ができないと、社会の構成員として認められにくい。そのためにも、ギリシャ時代の昔から、雄弁術や修辞学がありました。話し言葉を使って表現することについて、日本とは歴史的に根本的な差があるわけですね。

こういう人たちと世界でともに仕事や生活をしていくのですから、これからはやはり、「話す」能力の習得は避けて通れないでしょう。日本では、書き言葉は非常に熟達してい



ますが、話し言葉の習熟については、残念ながら、きわめて遅れているという認識がまず必要ではないかと思っています。学校でも、話し言葉を使っているというところについて、先生たち自身に習得の経験が少ないのではないのでしょうか。

家庭や学校では、できるだけのびやかに、子どもたちに言いたいこと、話したいことを伝えさせる習慣をつけていくことが大事だと思います。しかし今、家庭でも学校でも、少子化の中で、単語だけで子どもの言いたいことを何でも察してやる風潮がある気がします。

あるとき、自転車屋に子どもがやってきました。じつとして何も言わない。自転車屋さんが、どうしたの？と聞くと、「空気」と一言だけ。その子は、普段はそれで用が足せてしまっているんでしょう。「空気って何のことだ？」と周囲の大人が聞かずにいると、そこでコミュニケーションが止まってしまっている。

自分の言いたいことを言えるようになるためにはまず、相手の言うことを正確に聞き取って、理解する能力が重要になります。まず大人が、子どもが集中して聞き取れるようにきちんと話す必要があります。そして子どもがそれを聞いて、自分の気持ちや話を話す、ということを意識してやってくるのがよいのではないのでしょうか。

「話す」プロとして、草野さんはどのようにスキルアップを図っていたのでしょうか。

私はもともと報道記者志望だったんですが、NHKに入社後、意図してアナウンサーになれと言われました。自分はこの仕事をやっていけるのか、とても悩みました。でも、

気がついたんです。文章を書くのは作家によっていろいろな文体があるように、話し言葉にも、その人の独自の個性、キャラクターのある語り方があっていいはずだ。よし、やってみよう。他の方のアナウンスを聞いて、すてきなところとか、その話し方は違和感があるのかなど、意識してたくさん聞いたんです。そこから、もし自分であればこうしたい、という想像をするようになりました。そんな中で、自分流の表現法を築き上げていくこと、話し言葉で相手に「伝える」ことの大切さを日々実感するようになりました。

話したことが理解されるためには、相手が集中して聞いてくれることが必要です。その集中力は、人間は3分程度が限度です。ですから、小学校のうちから、自分が一番印象に残ったことなどを、2、3分間で話す機会を設けてほしいですね。そして、その話を聞いて思ったことを言い合う。人の話をしっかりと聞くうちに、あれはすごくおもしろかったとか、あんなふうに言えばぐっとくるんだとか、必ず糸口が見つかって、「話す」ことの到達への意思が強まると思います。

大人は、子どもたちにどのように向き合うのがよいとお考えですか？

元サッカー選手の釜本茂さんの話です。指導者として全国の少年サッカーを見て回って感じたのは、「日本の一番の弱点は、できるところを伸ばそうとするのではなく、苦手なことを是正することにエネルギーを注ぎすぎている」ということです。すごいシュート力のある子がいると、それをほめたうえで伸ばそうとするのではなく、それ以外の弱い部分をまず矯正しようとする。まづみんな同じ能力に並べようとするのでは優秀な選手が育ちません、突出して能力がありそうところを伸ばす方向づけをしてあげることが、よい選手を育てるには大切だと。苦手な部分は、後で何とか直していけるんですよ。

子どもをよく見て素質を見いだし、それをバックアップして育て上げていく、それが教育の一番の喜びではないのでしょうか。子どもたちは非常に大きな可能性を持っています。先生たちには、その可能性をできるかぎり伸ばしてあげてほしいなと思っています。



キャリア教育

これからの キャリア教育のために



千葉大学教育学部教授
藤川 大祐

新学習指導要領における キャリア教育の充実

平成23年度から小学校、24年度から中学校で新学習指導要領が全面実施され、25年度から年次進行で高校でも新学習指導要領が施行される。

新学習指導要領には、子どもたちが自己の生き方を考える、教科の内容を職業や生き方と関連付けてとらえる等、キャリア教育に関する記述が多く盛り込まれている。従来はともすると、キャリア教育は職場体験を中心と

した学習という印象が強かったが、教育課程全般を通してキャリア教育を位置づけていることがよくわかる。

各教科の内容について見れば、たとえば次のような記述がある。

- ・伝記を読み、自分の生き方について考えること。（小学校、国語）
- ・健康で安全な生活を営む資質や能力を育てる。（小学校、体育）
- ・理科で学習することが様々な職業などに関係していることにも触れること。（中学校、理科）
- ・心豊かに生きることと美術とのかかわりに関心をもち（中学校、美術）
- ・数学の社会的有用性についての認識を深める。（高校、数学）
- ・職場での活動（高校、英語）

社会や職業とのつながりが密接な社会科や家庭科等だけでなく、多くの教科でキャリア教育にかかわる記述がなされている。

このように各教科とキャリア教育との間に関連づけがなされていることの背景には、教科の側とキャリア教育の側の双方に必要性があると考えられる。すなわち、教科の側では、教科の内容が社会や職業とどのようにつながっているかを扱うことを通して、児童生徒が教科の内容に関心をもち、学習意欲を高め

られるようにしようということがある。そして、キャリア教育の側では、総合的な学習の時間等の一部で職場体験等を行うだけでは、継続的なキャリア教育を行って、児童生徒のキャリア形成に資することが難しいということがある。

「社会起業家教育」の取り組み

日本の初等中等教育におけるキャリア教育の歴史は浅いが、中学校の職場体験をはじめ、さまざまな実践が蓄積されてきた。学校と企業との連携によって、多様な教科・領域で授業づくり、教材づくりが進められている。児童生徒が勤労観、職業観を高める機会は、さまざまな設けられている。

しかしながら、多くのキャリア教育実践は、児童生徒の側から見れば、社会人に一方的に世話になるものとなりがちである。職業に就くことは何らかの意味で社会に貢献することであると考えれば、ささやかであっても児童生徒が社会に貢献するキャリア教育実践が、もっと検討されてよいのではないか。

私たち千葉大学教育学部授業実践開発研究室では、2010年8月、千葉市との連携事業として、小学生対象のプログラム「西千葉子ども起業塾」という実践を行った。この実践は小学校の授業として実施されたものではないが、今後のキャリア教育のあり方を考える材料となるものと考えている。



「西千葉子ども起業塾」保護者の声

(アンケートから抜粋)

遊びでなくて本格的に会社を作り、自分たちにさせてもらえたことがとても楽しかったようだ。少しは社会人の大変さや楽しさを味わえたようでした。

最終日は自分たちの会社が一番利益が少なかったと悔しがっていました。集客自体は少なかったわけではなく、一人あたりの単価が低かったことが原因ということだったので、なぜそういう価格設定になったのか、考えさせてみました。

参加させていただいてから、子どもの職業観が大きく変わったこと（今まではスポーツ選手になりたい等の憧れしかなかったが、より現実的に、世の中にはどんな職業があるのか父親に聞いたりして、いろいろな職業をノートに書きつけたりしていた。）や、より積極的に友達とかかわりたい等の思いの変化を感じることができ、驚きました。



千葉市経済企画課「西千葉子ども起業塾報告書」より
(<http://www.city.chiba.jp/keizainosei/keizai/kikaku/nishichiba-kidsentre-report.html>)

「西千葉子ども起業塾」は、千葉大学及び周辺の街において連続3日間、朝から夕方まで開かれる「塾」である。最終日の土曜日に、西千葉の商店街で「第三土曜市」というイベントが開かれる。子どもたちは社会人アドバイザーの支援を得ながら、このイベントに貢献する企画を立案し、商店街に提案する。商店街との間で契約が成立すれば、「第三土曜市」でその企画を実施することとなる。子どもは現金を直接扱わないが、現金に還元できる擬似通貨を設定し、取引は擬似通貨で行った（実際に購入する物品は市から出されたプログラム予算で購入した）。

このプログラムは、子どもに起業家精神（アントレプレナーシップ）を育てる起業家教育と言え、ある種のキャリア教育とも言える。しかしながら、従来、多くの起業家教育では、

子どもは一般の来客向けの事業（すなわちB to Cのビジネス）を企画、実施する。他方、「西千葉起業塾」では一般の人から収入を得ることは禁止されており、事業の相手は商店街である（B to Bのビジネス^{*2}）。しかも、舞台となる「第三土曜市」というイベントは、地域活性化に向けた地域の取り組みであり、非営利の性格が強い社会事業である。

子どもたちは3〜4名ずつ4つのグループに分かれ、「道行く人に第三土曜市宣伝のうちわを配付する」「来客と一緒に花を植える」「打ち水効果と集客効果を期待して水鉄砲の当てを行う」「第三土曜市の割引券がもらえるサッカーボウリングゲームを行う」といった企画を立案、実施した。いずれもイベントの盛り上げに貢献できるものと期待され、商店街とは、成果に応じた収入が得られ

る契約をした。

西千葉子ども起業塾は子どもたちが社会起業を体験するもので、言わば「社会起業家教育」である。社会起業ゆえに、子どもたちは自分たちだけが利己的に儲けようとすることなく、社会に貢献することを目指し、多くの人たちに喜ばれることの難しさと喜びとを経験することができる。

現代社会では、たとえ既存の企業に勤めていても、社会の中で必要とされることを見いだして事業に結びつけることが必要とされる。「社会起業家教育」としてのキャリア教育は、社会のこうした要請への一つの回答である。

^{*1} B to C：企業（business）と一般消費者（consumer）の取引。
^{*2} B to B：企業（business）間の取引。

キャリア教育

キャリア教育の充実に向けた 7つの話

NPO 法人企業教育研究会事務局長
千葉県キャリア教育推進協議会会長
市野 敬介



1 事前学習

職場に行く前の事前学習では、マナーの習得や職業調べだけでなく、体験・見学の目的を意識させたい。職場の中で働いている人を観察する「視点」や、職場の人とコミュニケーションをする際の「聴き方」や「聴くポイント」の習得をして、有効に活動できるようにしたい。

働いている人を観察する「視点」には、仕事の項目や時間帯、作業上の工夫、誰のために作業をしているか、といった点がある。例えば、仕事の様子に密着した映像を使い、その内容や何を工夫しているのかを観察させるだけでも「視点」を知ることができる。

千葉県教育委員会が平成20年に作成した「キャリア教育実践事例集」では、コンビニエンスストアの店員が接客、商品出し、清掃、発注などの作業を担う映像を観察する授業が紹介されている。それぞれの作業で行われている工夫や、声を出しているあいさつ、笑顔が大切だ、といったコミュニケーション上の心がけも理解できるようにしている。

話の「聴き方」や「聴くポイント」は、実際に取材を仕事としている新聞記者やライターの人から直接習得できる。一問一答で終わらせずに話を掘り下げることや、相手が話しやすいようにうなずき、相槌をうつ、といったコミュニケーションのコツを学べる。その

際には、職業調べの一環として、外部からゲストを招いてインタビューをさせることも有効だ。授業参観に来た保護者の協力を得て体験させるのも一つの方法である。

2 事後学習

体験を風化させないために、事後学習としての報告活動を工夫することが求められる。誰に、どういう形式で報告するか、設定を考えたい。

企業紹介の雑誌形式や、新聞形式にすることや、Webにまとめて発信することもできる。単に「体験した内容や理解した内容を発表する」ことを目的とするのではなく「どんな仕事・職場があるのか地域の人に知らせる」ことや「全国の人に、その地域の魅力を発信する」といった、学校外の人に発信するということができる。その発表を見たり、聞いた人から感想をもらって、コミュニケーションを継続させることも可能だ。

3 体験内容

職場体験や職場見学当日の内容の充実は、受け入れ先の企業や職場においても課題となる。日常の業務や作業を児童・生徒にそのまま体験させることが難しい企業や職種もある。児童・生徒が手取り足取り指導を受けながら「お手伝い」をするだけでなく、企業や職場の人から依頼を受けて、考えながら取り

今日、職場見学や職場体験が多くの学校で行われるようになり、外部人材・企業・団体などの「教育資源」の活用が求められるようになってきた。

しかし、これらの活動は非日常性が高く、安定的に行うには様々な課題があるようだ。学校と外部機関との連携を行うNPO法人の活動の中で見聞きした課題と、解決に向けて取り組まれている方策を記していく。



組む「課題解決型」の活動をさせることが考えられる。

例えば、特定の対象に向けた新しい商品を開発・提案させたり、職場の中で問題になっていることを見せ、その解決法を考えさせたりすることが出来る。作業プロセスの改善を児童・生徒と一緒に考える、といった課題設定も可能だ。

単純にその企業や職場が独自に行っている仕事や作業を体験させることは、その仕事および作業についての理解をすることが出来る。しかし、体験が終わり、その企業や職場を離れたら、その知識や能力を発揮する場は少ない。学校生活や日常の学習でも発揮することができ、また、他の仕事や職場でも求められる普遍的な思考力や発表力も、職場体験を通じて身につけさせるように内容を設定したい。

4 ネットワーク化

このような活動を毎年持続的に提供できる体制を、地域で構築することが求められている。職場体験や事前・事後学習のための共通プログラムや、講師派

遣のラインナップをまとめることができる。

地域の企業・職場が児童・生徒と「顔」を合わせる機会をネットワーク化することは、地域にどんな企業や産業があるのかを知った上での進路選択につながる。地域産業の衰退や、産業の担い手の減少といった問題を中長期的に改善するねらいもある。

5 校種間の運動

同じ地域内でも、中学校で職場体験を行うが、高等学校でも似たような形式でインターンに派遣したり、小学校の方が中学校よりも実践的な体験をさせたりと、体系化されていない場合がある。これは、校種を超えた情報交換が行われていないことに原因がある。

小学校から始まり、中学校、高等学校と、キャリア教育に関する授業や体験を連動させるカリキュラムを短期間で構築することは難しいかもしれない。しかし、学校間で情報交換を行うことや、児童・生徒が体験・習得したことを記録にまとめて「見える化」する仕組み作りは、すぐにでも始められる。

6 外部連携の「日常化」

ここまでは職場体験・職場見学を中心とした内容や体制の充実によって非日常化させない方策を述べたが、それ以外の授業時間でも外部人材とコミュニケーションをとらせたり、課題解決型の学習をさせたりすることは

可能だ。

教科の学習内容を活かして働いている人を授業に招いて関連を教えることができる。授業の内容に関連する企業人から課題を与えられた上で学習を進め、最後に発表させて企業人から評価を受けるように組み立てることができる。

次世代の育成に資する目的で教育貢献活動を行う企業も増えている。日常の授業を、学校外の教育資源と連携して充実させることが必要だ。

7 コーディネーターの「日常化」

このような取り組みを円滑に持続可能な形で実施するための「コーディネーター」の存在が注目されている。また、地域の教育委員会や商工会、NPOといった団体を中心とするネットワークが、各地で生まれている。

経済産業省では、平成20年から「キャリア教育民間コーディネーター育成・評価システム開発事業」が行われている。学校と外部機関との連携を促進して、子どもたちの学びの「場」を構築する人材が全国各地で誕生し始めている最中だ。

プロとふれあう授業を提案
NPO法人 企業教育研究会
<http://ace-npo.org>

オランダに来てから1年がたったB君。文化祭のちらしを近所に配りに行ったとき、自分からチャイムが鳴らせずに、友だちの助けを借りてやっと1枚配った子だった。そんなB君が、自分一人でも、AISRの子にかかわり、そして成就感を持ってほしいと願っていた。

そんな実態から、①役割を明確にするために一対一の関係をつくる、②毎回同じペアにする、③JSRの子がイニシアティブを取れるように事前に準備をしておく、④お互いに興味が持てる教材にする、という手立てを考えた。

そこで、写真を撮影し、パラパラ漫画のようにコマ送りしていく「ストップモーションアニメ」を各ペアで作ることにした。

いよいよ、本時。パートナーの子を呼びに行き、授業がスタート。カメラを各ペアに渡し、お題を選ぶ。一人がカメラマン、一人がモデルと役割を決め製作が始まった。B君のパートナーは、フランス人のC君。社交的で、いつも私にも話しかけてくれる子だ。このペアのお題は水泳。相手のC君が積極的にカメラを持ち、撮影が始まった。途中、C君が、B君にカメラを渡してくれ、B君も撮影することができた。2人で肩を寄せ、作品を見合う姿もあった。

授業後、B君がC君のところへ走り寄った。そして、握手を求め、「Thank you!」と伝えた。背中を少し押してあげた。しかし、今までのB君にはなかった姿だった。「パートナーのCと友好関係を持てたし、モデルになったときも、カメラマンをやったときも楽しかった。なんとか伝えて自分たちで協力して作品を作れたから楽しかった。」と振り返った。

後日、もちつき大会に招待したとき、C君は「B!

B!」と声をかけ、B君もうれしそうに「Follow me」と言いながら、案内をした。

「ゲームをやったとき、Cが『O.K ナイス!』とほめてくれたことがうれしかった。前の交流とパートナーが同じだったから、前より話ができてよかった。」と振り返った。

交流後、「英語をもっとやりたい……。」とB君がつぶやいた。「その国の言葉が話せなくても交流できる。でも話せたらもっと楽しい。」そんな気づきだった。こんな体験が少しずつ学ぶ意欲に結びついていった。

● 学び続けること、心をひらくこと

オランダ人の同僚はいつも言う。「Open mind」。いかに自分の気持ちを表現できるか、語学の時間にもかわらず、彼女の視線はそこに注がれる。そのために、彼女自身が笑い、喜ぶ。自分が心をひらくことで、子どもたちも変わる。

映画祭のダイレクターのAlex Oostは、子どもたちに話した。「寿司、相撲…。いかにも日本という紹介があるでしょう。でも私たちは、もっと日本のことを学んで、オランダで紹介していきたい。」この年、映画祭では、食、アート、ダンス、整体などのワークショップをはじめ、沖縄戦についてのパネルディスカッションが行われた。

言葉につまってしまったA君の反応は、実は私たちにとっても課題なのだと思う。そして、心をひらいていったB君の姿は、私たちにとって希望だと思う。異文化に期待と緊張を持って接する。そのために、身近な生活や文化について驚きを持って学び続けることが大切なのだと思う。🍵



●ストップモーションアニメ製作中



●もちつき大会終了後、握手

きょういく 見聞録

Open Mind

～ロッテルダム日本人学校での
交流活動を通して学んだこと～



私は、3年間、オランダのロッテルダム日本人学校（Japanese School of Rotterdam 以下 JSR）に勤務した。JSR では、日本の教育課程の上に地域性や学校の特徴を生かして、日々の学習が行われている。オランダならではのイベント、習慣、歴史などについて学習したり、英語やオランダ語を学び、学校の近くの出店で買い物をしたり、オランダの学校や老人ホームのお年寄りと交流したりした。

そんな中で、子どもたちが、「異文化」にほうり込まれたとき、「人」に自分からかわり、それを楽しみと感じてほしいと願い試行錯誤してきた。そんな活動の一部を紹介したい。

長野県軽井沢町立軽井沢西部小学校 井出 岳

● 英語を？英語で？何を伝えるのか

「日本のことで興味があることは何ですか？」クラスの子がオランダ人の学生さんに質問した。ロッテルダム市内で開催される映画祭「カメラジャパン」でのひとこまだった。カメラジャパンは、日本映画を中心に日本について考え、オランダで発信していくとするものだ。その一環として、JSR の高学年の子たちと、現地の大学生や専門学校生と交流が企画された。

学生さんは、「ぼくは、アニメが好き。特にナルトが好きだよ。」と話を始めた。英語での説明にも、日本のアニメの話題だったので、子どもたちはうれしそうに聞いていた。しばらくして、「じゃあ、君

は日本の何が好き？」と逆に問い返された。A君は、黙ってしまった。英語の質問だから、わからなかったのだろうか。それとも、日本語でも答えられなかったのだろうか。

その翌日、迎えに来たお母さんが私に話してくれた。「先生、家でも、息子に聞いてみたのですよ。同じように……。でも、やっぱり答えられませんでした。英語とかオランダ語とか言っている前に、もっと学ばなければいけないことがあるのですね。」

英語が使えることも大切だが、英語を使って何を伝えるのか。私たちは日本の何を知っているのだろうか……。そんな、疑問が生まれた。

● 交流授業で育っていったB君

JSA は American International School of Rotterdam（以下 AISR）と校舎が併設し、プレイグラウンド、食堂、体育館などを共有している。そんな環境を生かして、年間、様々な交流が行われてきた。その中から、交流授業を通してのB君の育ちについて紹介したい。

その年は5年生7名の担任をしていた。そこで6年生8名に加わってもらい、AISR の 5th Grade, 17人を迎えて授業を行った。



●カメラジャパンのひとこま

静岡県 静岡市立わらしな藁科中学校

みんなで育てた芝生の校庭 思いっきり走り回ろう！

グラウンド一面の緑が目にもぶしい、静岡市立わらしな藁科中学校（長谷川信一校長，78名）。
芝生化の始まりは，08年秋の生徒会長選挙で「エコ活動，学校の緑化」を生徒会活動の中心にしたい，と訴えた候補が，全校生徒の熱い支持を受けたことでした。
それから2年，見事な緑のグラウンドが実現したのは，地域の方の手厚い支援があったからこそなのです。



▲生徒たちは，昼休みになったとたん，全速力で校舎から出てきました。サッカーに熱中したり，はだして走り回ったり，じかに座って仲間と話したり。苗の植え付けから，水やり，草抜きなど，生徒たち自身が手塩にかけてきた芝生の感触を，全身で楽しんでいます。

芝生の育成は自分たちの手で

芝生化を強力にサポートしてくれたのは，サッカーチーム「清水エスパルス」〔静岡市〕のグラウンドキーパー，佐野忍さん。エスパルス練習場の芝の苗を無償で提供，さらに，佐野さんから教職員がレクチャーを受け，外部に一切委託せずに，学校・地域で芝の植え付け・育成・管理を行いました。芝は「ティフトン」という，維持管理コストの低い，繁殖力の強い品種です。その結果，今年度の費用は約百万円。非常に低いコストで芝生化を実現できたのです。

「藁科中学校の芝生を守る会」結成

藁科中の芝生化プロジェクトで最も特徴的なのは，地域の方々に「藁科中の芝生グラウンドは地域の財産」との思いがあること。昨年度，連合町内会長，卒業生，歴代PTA会長などが賛同し，教職員や生徒会長も加わって，長期的・安定的に芝生を維持管理しようと「藁科中学校の芝生を守る会」が発足しました。

校長先生はこう話します。「芝生校庭の継続には，ずっとこの地域におられる地元の方が見届けてくれるという関係を，地域とつくるのが不可欠なんです。学校の職員はいずれ異動がありますし，生徒たちも



1 滑り込みも思い切りできます。「鳥取方式」と呼ばれる芝生の育成の特徴は、養生期間を特に設けなくてよいこと。植え終わった翌日にはサッカーやソフトボールを行っていました。地面をえぐってしまったときには、生徒たち自身で埋め戻しておけば大丈夫。



2



3



4

3 2010年6月6日の、芝の苗の植え付けの様子。生徒や保護者はもちろん、学区に住む地域の方すべてに呼びかけ、卒業生や地域のお年寄りなども加わりました。23,000株を50cmおきに、碁盤の目のように植えていきます。

4 今年度の体育祭は、みんなはだしで行いました。16人17脚、フラッグ取りなど、思いっきり走り、倒れることができる種目をたくさん取り入れたとのこと。生徒たちは、芝生に転ぶことをむしろ喜んでいました。それでも、けが人はゼロ！



5



6

5 芝生の校庭は、地域の方みんなの財産。地区の運動会も盛大に行われます。ここでもけが人はなし！

6 苗の水やり。先生の指導を受けながら、芝の管理は生徒たちが主体となって行います。

緑に輝く芝生を自分たちで世話してきたという自負。この芝生を使うことで、学校に対する愛着や誇り、そして生徒たちの自尊心につながっていく……。次年度に向け、芝生「活用」への期待がふくらむ、薬科中学校です。

緑に輝く芝生を自分たちで世話してきたという自負。この芝生を使うことで、学校に対する愛着や誇り、そして生徒たちの自尊心につながっていく……。次年度に向け、芝生「活用」への期待がふくらむ、薬科中学校です。

「忘れてはならないのは、芝生化は目標・手段であって、目的ではないということ」と校長先生。「芝生の校庭によって子どもたちにどう笑顔が広がっていくか。あるいは地域とどうつながっていくのか。その姿を求めているということなんです」。

「緑の校庭とぐんば、薬科中！」

卒業して学校を出て行く。学校だけの事業ですと、人が代替わりしていくと廃れていきます。地元の財産としての合意形成が非常に大切で、それには、学校と地域の対等の関係が成立していることが必要なんです。」



連携型小中一貫教育の推進—教育力向上授業 Learning S Project ~ Spiral Symphony Synergy ~について—

大阪府

高槻市教育委員会学校教育室

高槻市では、平成20年度に「学びの連鎖強化ビジョン」シンポジウムを開催し、学校・家庭・地域関係者の「横の連携」、幼稚園から大学までの「縦の接続」を強化することで、学びの相乗効果を生み出すことを提起し、今年度、教育力向上事業（Learning S Project）として具体化したところです。

「横の連携」では、教育基本法にもあるように、教育の第一義的な責任は家庭にあるとの認識のもと、さまざまな施策を通して家庭の教育機能を高めます。それとともに、各学校で実施される教科等の学習やクラブ活動や部活動、体験学習等について、保護者・地域の方々や地元の大学、企業や研究団体等の支援を得て、これまで以上に幅広い教育活動の展開が図れるような取り組みを進める予定です。

「縦の接続」では、「連携型小中一貫教育」の取り組みを重点的に進めます。これまでの参観や行事等での小中連携に加え、義務教育9年間を見通した、発達段階に応じた段階的なカリキュラム編成の研究を行います。各中学校区で、児童生徒の実態や地域の実情に

じた、より系統的かつ弾力的な教育活動の展開を進めるものです。

「同一中学校区内の小中学校で、共通の『①目標 ②指導内容 ③指導方法』が義務教育9年間を貫いて設定され、教職員や保護者等の共通理解のもとで実施される教育」を「連携型小中一貫教育」と定義しています。

現在、高槻市立第四中学校区が文部科学省の研究開発学校の指定を受け、義務教育9年間を見通したカリキュラムの開発を進めています。

今後、こういった取り組みの成果を踏まえ、連携型小中一貫教育校の指定を増やす予定です。



「環境」・「人」が子どもを育てる

高知市立朝倉中学校校長 宮田 龍

高知県

朝倉中学校では、学力向上対策の一つとして、校内の環境整備に徹底的に取り組んでいます。

一例として、学校で作成したオリジナルの掲示物などによる校内整備があります。学校内はどのエリアに行っても、掲示物や壁画等が、それぞれの場所に整然と貼付されています。本校での教育的効果は、この掲示物に対し、生徒が落書きをしたり、破ったりすることが決してないということです。掲示物等を整然と整備し、保守することによって、生徒に学校を大切にしなければならないという意識が芽生え、重ねて生活にも落ち着きが見られようになってきました。教員の努力はもちろんですが、Non Teaching Staff（事務職・用務員・学習支援員等）の日々の活躍も学校を支えています。

①廊下の壁の「高知のやなせすぎ（縦2m横4m）」の日本画は、高知大学の学生による協力で作成しました。

②生徒が考案した学校キャラクター「アサクラマン」の壁画をあちらこちらに描いています。

③「けがに注意」のポスター（看板といっても過言ではありません）は、本県で発生した児童による水難事故を受けて作成しました。縦1.3m横2.4mの特大版で、体育館入り口にて生徒たちに注意を呼びかけています。

④1枚版「学力向上に向けての15の提案」も、子どもの生活面や学力向上に効果を上げています。

さらに、学校支援地域本部による地域の「人」たちが、行事の日はもちろん、平日でも学校の要請等に応じてください、強力なサポーターとなっています。まさに「環境」と「人」が子どもたちの育ちを支えています。





商業科・普通科併設の中高一貫教育校開校へ

太田市教育委員会 中高一貫教育準備室

群馬県

太田市では、太田市立商業高等学校を母体とする中高一貫教育校（太田市立太田中学校）を平成24年度に開校します。本校は、群馬県で唯一の併設型中高一貫教育校となり、全国で数校しかない普通科と商業科を設置した学校になります。そして、夢や好奇心をもち楽しく学ぶこと、中学・高校の目標に向けて仲間と学び合い高め合うこと、夢中になれる体験・仲間と感動を共有する体験ができることの三つを重視した教育を推進します。また、次のような教育を大切にします。

- 6年間で「基礎基本」（中1・2）、「自主自立」（中3・高1）、「個性伸長」（高2）、「深化発展」（高3）の4ステージに分け、生徒の個性や能力を段階的に引き出し、一人一人の夢や目標に対応します。
- 大学や企業等の優れた人材を外部講師として迎え、最先端の知識や技能に触れられるようにします。また、地域の人材から郷土の歴史や文化を学んだり、部活動の指導を受けたりできるようにします。
- 商業科の伝統的な行事である百貨市（販売実習）に、

中学や普通科の生徒が文化祭を兼ねて参加したり、普通科と商業科の生徒がそれぞれの科目の授業を受けたりするなど、生徒同士の交流・連携による高め合いができるようにします。

さらに、上記の教育を推進するために必要な教職員の指導力を様々な研修により高めていきます。その結果、本校で育った教職員が、やがて市内の学校へ移り、身に付けた力を発揮したり、本校の特色やよさを広めたりすることにより、太田市全体の教育力向上にも寄与することになると考えています。



紙芝居の学習をとおして言葉で表現する力の育成

浦安市立浦安小学校校長 明保 治男

千葉県

創立122年目を迎える本校は、保護者、地域の方々のあたたかい思いに支えられた学校です。地域とともに歩む学校づくりを学校経営の柱とし、地域や社会人の教育力の学校への導入を図り、子どもたちの生きる力を育む、豊かな教育実践の展開に努めています。

本校では、4年生の子どもたちが取り組んでいる「紙芝居学習」を、脚本家である若林一郎先生をお招きして行っています。（若林先生は、1960年代、テレビの人気番組「オバケのQ太郎」や「ワンダー・スリー」の脚本を書いていた先生です。）

若林先生が書いてくださった、浦安を素材にした脚本により、子どもたちは浦安の歴史や人々の思いを語りのなかに感じ、それを表現しようと努力します。若林先生は、紙芝居の授業のなかで、しっかりとした声を出すことと、思いを込めた表現をすることの大切さを繰り返し子どもたちに伝えてくださっています。1回2時間、計10回の授業をとおし、子どもたちの声の質、語りの力が高まっています。

本校は、「言葉の豊かな児童の育成」をテーマに、国語の研究を進めています。例年、この「紙芝居学習」を経て、4年生の子どもたちの音読の力、読みの力が大きく伸びます。しっかりした声が出せること、思いを込めた表現ができることは、これからの学習においても、ひいては人生を生き抜いていくためにも大切な技術（スキル）となります。

11月下旬に、「ふれあいまつり」という行事を開催しました。この折に4年生は、地域の方にもこの紙芝居を見ていただき、大好評でした。本校では、これからも地域や社会人の方々の力をいただきながら、豊かな教育活動を展開し、子どもたちの確かな生きる力の育成に努めていきたいと考えています。



地球となかよし メッセージ2010

入賞作品発表



◎協賛／日本環境教育学会 ◎後援／環境省、日本環境協会、全国小中学校環境教育研究会、毎日新聞社、毎日小学生新聞

第8回「『地球となかよし』メッセージ」。今年度も、全国各地、そして海外からも、
たくさんの力作が寄せられました。1300点を超える作品の中から、
審査の結果、特別賞6点、学校賞2校、入選作12点が選ばれました！



ちきゅうも赤ちゃんもだいじ

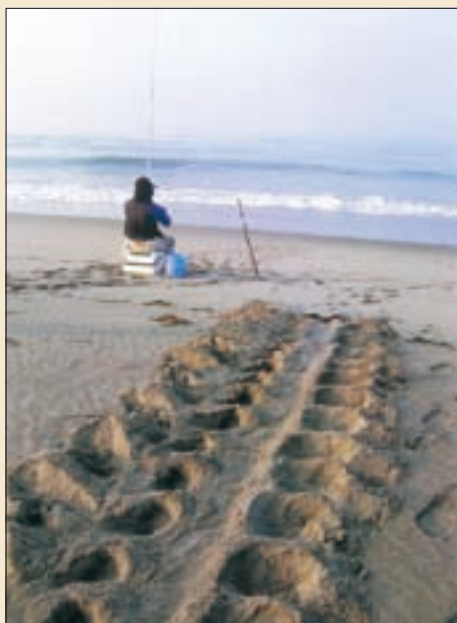
犬塚 媛理

愛知県碧南市立新川小学校1年

8月9日に、わたしのいもうとがうまれました。赤ちゃんは、まだおしゃべりできないし、あるけないから、パパやママがおむつをかえたり、だっこをしてあげています。わたしやおとうとがだっこをすると、にこっとわらいます。わたしたちがすんでいるちきゅうも、やさしくだっこしてあげるとわらってくれるかな？

地球と
なかよし
大賞

評 わらいであふれている、がめん。きもちよさそうな赤ちゃん、そしてちきゅう。こんなせかいでありたいな。



共生

永田 彩華

静岡県 ART-N エコクラブ 中学3年

私達の住む町の近くにある海岸は、夏になるとコアジサシとアカウミガメが産卵にやってくる。これらは絶滅の恐れのある野生生物としても知られている。

ハマヒルガオなどの海浜植物が生え、スナガニやシロチドリといった生き物も生息しているこの自然豊かな砂浜には、私たち人間も季節を問わずレジャー等で訪れている。

夏の早朝、波打ち際近くでアカウミガメの上陸した「足跡」を見つけた。ブルドーザーが通ったような大きな「足跡」の横で、釣り人がいた。夜の間に産卵にやってきたアカウミガメと、朝から釣りをしている人間が同じ砂浜にいたというこの光景を見て、「みんな地球の一員だ」と実感した。

評 子孫を残し、力強く海に帰った生命の軌跡。それを見送る「いま浦島」の釣り人。悠久の自然が、今もここに。

環境大臣賞

水神と富士山

福井 みゆ子・榎林 一皓・杉山 菜々美・
久保田 栄一・繁田 龍秀
静岡県静岡市立駿機小学校 6年



わたし達は、エコキャップ運動に協力しようといっしょうけんめいにキャップを集めました。ただあつめるだけではつまらないのでキャップをならべてメッセージを作ることになりました。そこで、わたしたちのグループは、地球にとって水が一番大切だと思って、それを表げんしようと思いました。思いついたキャラクターはりゅうと富士山です。りゅうは、水神さんとして水を守ってくれます。富士山の周りは、わき水がたくさん出るきれいな所です。いつまでも、きれいな水を守っていけるようにしたいです。

【評】 みんなで集めたキャップにこめた、水への感謝。りゅうはおどり、富士のおなかに青い水があふれています。

● 全国小中学校環境教育研究会賞

野洲川、外来魚くじょプチ作戦!!

伴 鼓太郎・伴 菊香
滋賀県 エコクラブ「石部ふれあい森の家」 小学3年・1年



ほくのすんでいるしが県には、びわ湖があります。今びわ湖は外来魚のせいでこゆうしゅがへってこまっています。でもそれは湖だけではなくでした。ほくたちがよくあそびにいく野洲川にもなんとブルーギルがいたのです。野洲川はあゆつりがさかんな川です。あゆのち魚が食べられてしまうんじゃないかとしんばいになりました。そこでほくもくじょすることになりました。ただするだけじゃかわいそうなのでやいてたべことにしました。たとえ外来魚でもがんばっていきいます。たいせつないのち、むだにはしません。

【評】 外来魚にもたいせつないのちがある。すてらばいいというわけではない。なやみ、心はいたむ。せめて……。

● 日本環境教育学会賞

土は地球のエアコンだ!

西川 弘紀
東京都府中市立府中第六小学校 4年



【アスファルト・41.5℃】水をふくまないアスファルトは、水の蒸発がないため太陽からの熱のほとんどが気温を上げるために使われる。
【土の地面（林のそば・日なた）38℃】土は水をふくんでいる。土の表面から水が蒸発することで、まわりから熱をうばうので気温の上昇をおさえられている。
【土の地面（林の中・日かげ）36℃】葉の表面から水を蒸発させる（蒸散）。その時まわりから熱をうばうので林の木は土とともに気温を下げていく。
今よりアスファルトの地面をふやさず、林や土の地面を大切にしよう!

【評】 同じ日同じ時刻。アスファルトと林の中では5度以上もちがうんだね。なぜかの理由も、なっとくしたよ。

● 毎日小学生新聞賞

家族の一員

加藤 杏実
バトルクリーク補習授業校 中学3年



ふと外を見ると舌を出し、幸せそうに飼い主と一緒に散歩をしている犬を見て、つられて笑顔になった。ペットは、人々の心を癒し、落ち着かせたり、楽しませてくれたり、人々のために貢献しているのに対し、私たちはどうだろう。ある人は虐待を繰り返し身勝手な行為でペットを苦しめている。約四十万頭というのは、年間、犬や猫が殺処分されている数。これが今起こっている現状だ。しかしペットはいくら放っておかれ、捨てられても愛し続け、いつかきくと迎えにきてくれると願いながら待っている。ここまで思う訳はただ一つ、彼らには飼い主しかいないし家族だからだ。一度、ペットの見方を変えてみてはどうだろう。尊い命が一つ消えずに済み、一歩「地球となかよし」に近づくことが出来るかもしれない。

【評】 ペットの人間に対する無私、無償、無限の愛。それを感じるとしなやかさを、いつしか失ってきていました。

● 毎日新聞社賞

◎審査委員(敬称略)

有田和正 (東北福祉大学教授)
増井久輝 (環境省総合環境政策局環境教育推進室室長補佐)
角屋重樹 (国立教育政策研究所教育課程センター基礎研究部長)
末吉潤一 (全国小中学校環境教育研究会会長／
東京都江戸川区立西小岩小学校校長)
諏訪哲郎 (日本環境教育学会事務局長／
学習院大学教授)
児島邦宏 (東京学芸大学名誉教授)
小野田正利 (毎日新聞社
こども環境・文化研究所所長)
手塚賢二 (教育出版株式会社取締役)



東京都
府中市立府中第六小学校

神奈川県
相模原市立鵜野森中学校

● 学校賞



入

選

作

品



グリーンカーテン

上出 洋暉
青島日本人学校小学部6年

夏の暑い日にはエアコンをつけてすずしくする人は多いと思います。僕もそう思います。だけど、エアコンをつけっぱなしだと、おなかに悪いし、環境にもよくないと思います。そんな時、僕はグリーンカーテンに行き、体をすずしくします。エアコンとは、またちがうすずしさをあじわえます。

みんなも、時々、グリーンカーテンで体をすずしくしてみてください。



GOOD

藤本 里香
香港日本人学校小学部香港校2年

夏にかぞくでスペインに行ったとき、レストランのおねえさんにびっくりされました。なぜかという、スペイン語でちゅうもんをしたからです。おねえさんはわらいながら「GOOD!」といいました。わたしもわらいました。それから、ハイタッチをしました。その時、心と心が通じ合った気がしました。なぜかわかりませんが、すごくうれしくなりました。かぞくの人にも、「よかったね。」といわれて、なんだか体がほかほかしてくる気がしました。そして、体がだんだんかるくなってくる気がしました。



愛しい

鎌田 奈菜子
秋田県 エコクラブ「ハッピーハッピー」小学4年

意味わかる？
昔話っていうんだよ
しっかり聞いてね
ゆっくり読むよ
まちがえないように
ていねいに
文字をおぼえるその日まで
わたしはいこの先生になる



どうぶつたちを まもろう！

森澤 菜緒
東京都足立区立青井小学校2年

わたしは、ぜつめつきぐのある、どうぶつをしらべてその中からえらんで、かきました。そのどうぶつの気持ちもがすこしわかりました。わたしはどうぶつがいなくてはいけません。人げんたちがどうぶつたちをまもろうとすこし思いました。どうぶつたちもわたしたち人げんと、おなじなのかなと思いました。どうぶつの気持ちをたくさんわかってあげられるといいなとすごくむねにいっぱい思いました。わたしたち、人げんも、どうぶつの力になれたらいいなと思いました。あたらしいしぜんが、いっぱいあるといいなと思いました。人げんとどうぶつや虫、いろいろなものたちが力をあわせれば、あたらしいものも生まれて海もきれいになると思っています。



たすけてあげたかったなあ

松下 員徳
兵庫県 エコクラブ「メゾピアノ」小学2年

ぼくのいえで見つけた せみのぬけがら
だっぴするまでにしんじやった
もうちょっとだったのにね
ぼくたちがふくをぬぐとき 手つだってもらえるように
ぼくが手つだってあげたかった

かた足がとれたせみ しゃんをとるとき
こっちをみているようで ちょっとこわかった

ぼくの家前のどうろ アスファルトがとってもあつい
大きなはち、しんでいた きっと大やけどしたんだね
ごめんね、あつかったね うち水がまにあわなかったね
たすけてあげたかったなあ

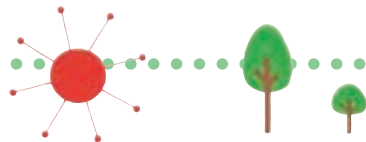


緑いっぱいの地球に

松山 奈穂
埼玉県さいたま市立大久保中学校1年

今、地球では地球温暖化が進んでいます。地球温暖化は、二酸化炭素の増量が原因です。植物には、二酸化炭素を吸って酸素を出す光合成という働きがあります。私の家には、見上げるほどの高さになるキンモクセイの木があります。私が生まれた時に市から貰って、今まで大切に育ててきたものです。

私の木は幹の太さが20センチあり、この太さの木だと78gのCO2を吸収します。145.6L、1.8Lペットボトル81本分だそうです。人間が吐き出すCO2を1人分も吸収できませんが、これから何年もたつうちに、幹が太くなりもっとたくさんのCO2を吸収できるようにしたいと思います。緑いっぱいの地球になってほしいと願っています。



たいせつないのち

北野 美緒奈

バトルクリーク補習授業校 小学2年

わたしのおじいちゃんとおばあちゃんは、犬をかっています。名前はたいようです。たいようをさわると、あたたくてポカポカな気持ちになります。わたしは、ごはんをあげて、いっしょにあそんであげます。たいようは、おじいさん犬になってきたので、しんばいです。もし、たいようがしんでしまったらかなしいです。たいようのかわりはだれもいません。これから、たいようをたいせつにかけがえのいのちだと思います。

たいようだけではなく、ちきゅうにすんでいる、ぜんぶのどうぶつが、みんなからたいせつにされるといいます。

かぞくといっしょにテレビを見ていたとき、うみがめがわれたふうせんをえさとまちがえて食べてしまい、しんでしまった話を知りました。わたしは、かなしい気持ちになりました。人げんが、われたふうせんをゴミばこにすればこんなかわいそうなことは、おきなかったと思います。ちきゅうをきれいにしようとみんなが思うことが、どうぶつのいのちをまもることになるとおもいます。

どうぶつのいのちも人げんのいのちも、同じくらいたいせつだと思います。ちきゅうにすんでいる人たちみんなで、どうぶつのいのちをまもり、なかよく、くられればいいと思います。



ぼくの妹・小春ちゃん

八木 悠之介

広島県尾道市立高見小学校4年

ぼくの妹は人間じゃなくてしば犬の女の子。人間じゃなくて犬だけれどぼくたちにとって大切な家族。ぼくは、今まで一番だったから妹ができてすごうれいよ。

ぼくはお兄ちゃんだから小春ちゃんをかわいがるし、まもってあげるよ。なかよくしようね。

小春ちゃんがお母さんとわかる時どんな気持ちだったのかな？さびしかったと思うからぼくがさびしくないようにしてあげるよ。お母さんがわりになってあげるよ。だって家族だから。

人間も、動物も、植物も、海も空も山も……地球にあるもの、ぜんぶが家族だから大切にしたり、守ったり守られたり、助け合っていく！

それが家族だと思う。



一ぱいのお米ができるまで

植西 美侑

京都府 立命館小学校5年

私のお茶わん一ぱいのご飯は2952粒だったのだけど、6分の1の収穫しかなかったとはビックリだ。

水やりがとても大変で、もみ殻取りも時間がかかったので、おにぎりくらいは作れるだろうと思っていた。広い田んぼだと、もっと手間がかかって農家の方は大変だと思った。

1粒の収穫にも5か月ほどがかかる。作ってくれた農家の方や暑い日も雨や風の強い日もがんばって育った稲の命に感謝して、ご飯を1粒も残さずに大切に食べたい。



水はぼくらの命のもと！ 水はぼくらの元気のもと！

小池 翔希

広島県尾道市立高見小学校4年

今年の夏はとても暑くて毎日40℃ちかくありました。ぼくの家のは土はガチガチでまるで石のようでした。水がきれた野菜の葉っぱは、シワシワになりたれ下がっていました。かれてしまうものもありました。ぼくも暑くてお茶ばかり飲んでいました。

人間も水がないと死んでしまうのと同じで植物や虫なども水がひつようなのだと思います。

ガチガチの土も、水をまくとドロドロでとても気持ちがいいです。

ぼくは夏休みに「海は生きている」という本を読みました。その中で水があって植物や動物の命が生まれたことが書かれていました。

ぼくはこの大事な水をもっともっと大切にしていきたいです。



いいけむりを すいたい！

高橋 紗菜

バンドン日本人学校小学部1年

わたしのいえのゴミを、もやしてくれるのは、カルノさんです。わたしのいえからは、まいにちたくさんのゴミがでます。それを、ぜんぶいえのもののよこでやいています。

なつやすみに、にほんにかえったとき、ゴミをわけてすていて、ゴミすてばからいつのまにかゴミがなくなっていました。

インドネシアでゴミを、もやしているとき、いいにおいのけむりやくさいけむりがあります。しろいけむりやこげちやいろのけむりがあります。そのけむりのなかでわたしはあそんで、カルノさんは、おしごとをしています。

しろい、いいにおいのけむりがでるように、ペットボトルをへらしたり、ゴミがすくなくなるようにしたいです。



大地からのおくりもの

新納 翔悟

宮崎県 エコクラブ「216クラブ」小学6年

自分が食べたものに種子があり、その種子を植えるとまた実ができます。これは生命のつながりだと理科の勉強で学びました。

この4つの写真はぼくが実際に食べたぶどうとかぼちゃとすいかとびわの種子を庭の畑に植えて成長している様子です。

種子をそのまま常温で部屋においていても何の変化もないのに、大地のめぐみとお日様パワーとたくさんの水をあびて芽を出して、くきをのばし、葉をしげらせている様子を観て、力強い生命のつながりを感じます。

地球上の大地が、これからもずっと尊い命を育てていけますように。



地球となかよし ゼミナール



子どもたちのメッセージに学ぶ

子どもたちの思いのこもった「地球となかよしメッセージ」。
応募いただいた学校の取り組みを紹介します。

エネルギー環境教育の充実と 環境への意識の高まり

瀬戸内海に浮かぶ向島。この島で生まれ育った高見つ子たちは、いつも元氣いっぱいです。

その一人である山森涼介さんは、向島で一番高い高見山から望む海の夕焼けを写真に収めました。山森さんは幼い頃から、その場所を何度も家族で訪れていて、大好きな場所だということです。その大切な景色を、ごみなどで汚すことなく、いつまでも守りたいという思いを持っています。

横詩乃さんの家のすぐ前には海があり、海を身近に感じて過ごしてきました。しかし、砂浜にはいつもガラスが落ちており、素足で走ったことがないそうです。素足で走ってみたいという気持ちをこめてガラスを拾い、横さんはこの作品を制作しました。横さんはこれまで、落ちたガラスを見つけたときに拾ってきたけれど、きりがなく、残念に思っています。

二人とも、これらの自然を守るため、ごみを捨てないことが大切だとの実感を持っています。



このけしきをまもりたい。

2年 山森 涼介

ぼくがすんでいるむかいしまには、高見山という山があります。むかいしまでは1ばん高い山です。そこからのながめはすごくきれいで、ぼくもぼくのかぞくも大すきな場しよです。広い海とたくさん島のしまを見ることができ、小さなふねや大きなふねが行ったり来たりしています。

その中でもとくに夕やけがきれいで、このきれいなけしきをいつまでも見られるといいなあと思いました。



すなはまだなかよし

2年 横 詩乃

わたしのいえの前に海があります。海のすなはさらさらで、気持ちがいいです。でも、わたしはだして走ったことがありません。どうしてかという、ガラスがたくさんおちているからです。

すなはまだのガラスがぜんぶなくなって、はだして思いっきり走れるようにしたいです。

そのためには、ガラスを見つけたら、ひろおうと思います。

ます。そして、その実感は、ごみを分別する、環境を守るためにエネルギーを無駄遣いしないなど「エコ」が大切だとの思いにつながっているようです。

本校では、二人のように自然を大切にすることを意識を高めようと、次の三点に取り組んでいます。

一点目は、エネルギー環境教育の視点を入れた生活科・理科学習を充実させることです。本校は、本年度よりエネルギー教育実践パイロット校（経済産業省資源エネルギー庁）の指定を受け、「感性を育てる理科授業の創造」を研究主題に掲げ、エネルギーに対する感性を育てることを目指して授業づくりを行っています。エネルギーに関する疑問をもとに観察や実験を行い、発見・実感・達成感・探求心を持てるようにしていきます。単元終了後には、新たな問題意識を持ち、学習内容と身の回りの生活を関連づけて考える子どもたちの姿が見られるようになっていきます。

二点目は、他教科等との関連を図ることで、理科学習でエネルギーの有効性を感じさせ、総合的な学習の時間で課題の解決に取り組めます。そして、解決したことや残された課題を、集会において発表し他学年にも広げていきます。

三点目は、海を身近とする本校周辺の自然を生かした体験活動の充実です。地域や関係機関の方のご協力をいただき、海に触れる体験を重ねています。海岸に出かけ生き物を観察して飼育したり、ヒラメの養殖を見たり、無人島にいかだを漕いで行ったり、海浜清掃を行ったりしています。このような体験を通して、海に親しみ、豊かな心を育てたいと考えています。

子どもたちが高見の自然を、さらには地球全体の環境を大切に思い、環境を守る態度を育てることを目指し、光輝く海のような笑顔と活気にあふれる子どもたちとともに、今後取り組みを続けていきます。

広島県
尾道市立高見小学校教諭
植田 良子

「進路」思い詰めないで



香山 リカ
(精神科医・立教大学教授)

子どものころからやりたいことが決まっていた、という人もいる。スポーツ選手や音楽家の多くは、小さなころから「この道ひとすじ」で迷うことなく努力を続けてきたはずだ。

一方、子どものころにはまさかこの仕事につくとは思わなかった、と言いながら、その道で活躍している人も少なくない。

中には、「この仕事だけはするまい、と思っていた職業になぜかついてしまった」という人さえいる。実は私自身このパターンで、子ども時代は医者である父親を横目で見ながら「私は絶対、医者以外の仕事をするぞ」と思っていたのに、行きたい学部受験に失敗したりして、結果的には医者になった。

私の場合、もう25年もこの仕事をやってきたので、さすがに「まあ、医者でよかったのかな」とも思うが、それでも「望む進路に進めなかった」という後悔、挫折感がいまだに顔をもちたげることがある。それくらい、子どもにとっては「〇〇になりたい」「〇〇になりたくない」というのは大きなことなのだろう。



イラスト：ひなたひかり
<http://koreamitene.or.jp/~twins7yh/>

もちろん、私がそうであったように、すべての子どもが望んだ通りの道を歩めるわけではない。それどころか、子ども時代の夢はかなわないほうが多い、とも言えるだろう。

「この道はあきらめなければならないかも」という事態に子どもが直面したときに、「いや、こっちでもいいんじゃないの」とまわりのおとながフォローしてあげることも大切だ。「これしかない!」と思い詰めている子どもには、「いろいろな道があるから」とちょっと心の視野を広げておいてあげることも、必要になるだろう。

そして、進路が決まらない、と悩んでいる子どもには、「早く決めなさい」と問い詰めることなく、笑顔でこう言ってあげてはどうだろう。「あなたの心の奥では、答えはちゃんと出ているはず。どんな答えなんだろうね?」。

結局は、どんな道に進もうとも、望んだのとはまったく別の道に進むことになるだろうとも、その子はその子、ということ。進路は大切な人生のテーマであることはたしかだが、保護者も教師もどこかで「たかが進路」と余裕を持つことを忘れてはならない、と思う。🌀

会員の皆様に、インターネットを通じて教育情報を提供します。

教育出版

エデュコネット

EducoNet の会員を募集しています!

入会金・会費は無料です!

フレッシュな
教育情報



会員特典

- ◆会員専用のコンテンツにアクセスできます。
- ◆メールマガジンが定期的に配信されます。

会員専用コンテンツ

- 教育情報……………教育界の動向等の情報提供
- 教科のページ……………年間指導計画・評価基準・高校シラバス・教科別お役立ちコーナーなど
- メールマガジン……………教育関連情報をタイムリーに発信

WEBにて受け付けています!!

教育出版ホームページまたは
<http://educonet.jp/entry.html> に
アクセスしてください。

申し込みを受け付け後、ID・パスワードを勤務先に郵送します。

教育出版

▶▶▶ EducoNet事務局 E-mail: educonet@kyoiku-shuppan.co.jp

ほっとな 出会い



© 矢田部裕

フェンシング選手

太田 雄貴さん

1985年生まれ、滋賀県出身。同志社大学商学部卒業。森永製菓(株)所属。小学3年生からフェンシングを始め、小・中学ともに全国大会を制覇。高校時代には史上初のインターハイ3連覇を達成。2008年北京オリンピックで銀メダルを獲得し、2010年世界選手権では個人団体ともに銅メダルを獲得。2012年ロンドンオリンピックでもメダル獲得をめざす。

褒めることで、才能が引き出される

僕がフェンシングを始めたのは、父が学生時代にフェンシングをやっていた、息子をオリンピックにという強い思いがあったからなんです。最初はあまり好きではありませんでした。フェンシングにはまっすぐにスタートラインは、勝って表彰されて、喜ぶ父の顔を見たかったということだったんです。褒められてうれしくて、また挑戦しようと。

子どもが何かを始めて、楽しさに気づくのは意外と時間がかかります。でも、褒めることによる、いい勘違いがよさを引き出すんです。もちろん、要所で叱ることは大事ですが、少しでもよいところを見て褒めてあげてほしいですね。僕自身、ちよっと勝って父に褒められたことで、「僕にはフェンシングが向いている!」数年で日本一がとれるんじゃないか!という安易な発想が生まれて(笑)。でも、そこから今に至っているんです。

結果をめざすからこそ、過程が財産になる

僕は負けず嫌いだっだし、小さいころは勝つことがすべて、というぐらいの気持ちでやっていましたが、敗者がいるから勝者が輝く、ということが今はわかります。でも、最初から影になろうとするのではなくて、光をめざすべきではないかと。一瞬一瞬をつねに一生懸命生きる中で、自分がこうなっていきたいというものをしっかり持つ。一番をめざすからこそ、たとえ五番、十番になっても、自分の積み重ねてきた日々は価値があったと思えるのではないでしようか。

最初から「結果より過程」と言ってしまうのは、どうなのかなと僕は思います。父には、「つねに優勝するつもりでやれ、その結果負けたりしても、過程は君を裏切らない」と言われてきました。「過程」は結果を出すためにやるものだという前提があるんですね。

試合前、プレッシャーは非常に感じます。で

も、緊張からは絶対に逃れられない。実は、緊張が、いいプレーを引き出す最低の条件なんです。しっかりと練習して、勝ちにいこうとしているから緊張するんです。自信がなくて、やれないとわかっていたら緊張しませんから。ですから、緊張することをネガティブにとらえなくていいんですよ。自分がしっかりと準備した証拠なんですから。

スポーツには嘘がないから感動する

2009年から、小学生のためのフェンシング大会、「太田雄貴杯」を開催しています。世界基準の会場や設備で、子どもたちにわくわくどきどきさせてあげたい、子どもたちがこういう舞台をこれからも目指したい、と思っています。そういう思いを込めてプロデュースしています。そして、僕とふれ合うことで「世界」を感じてもらいたい。世界で戦うには、ここまで強くならなきゃいけないというのを実際に見せる機会でもあります。

でも、子どもたちの真剣な顔や一喜一憂している姿を見て、実は僕のほうが元気をもらっているんですよ。こういう素直な気持ちを忘れてはいけないんだと。今後、フェンシングの普及やフェンシング界への還元というところでどうつなげるか、子どもたちへの社会貢献をいかに実現していくかを課題に、いろんなコンテンツを組み込みながら大会を続けたいですね。

スポーツを見て、多くの人が感動するのは、そこに嘘がないからです。よい結果でも残念な結果でも、また、自分とは直接関係のない選手であっても、その真剣な姿を見て涙を流す。それがスポーツのすばらしさだと僕は思っています。僕も、スポーツの価値を皆に知ってもらえるようなプレーを、これからも続けていきたいですね。

Educo Salon

前号について寄せられたご感想です。

◆福岡伸一先生の巻頭インタビューは、学校の先生方に多くの示唆を与えてくれたものと思います。子どもの心をつかむのは、教師が幼いころに抱いていた思いを今も大切に持ち続けていること。このことを子どもに伝えることのできる教師がたくさん生まれてほしいですね。(福島県 神田 紀) ◆東京都千代田区千代田小学校の「千代田授業スタンダード」は、学校の教育財産を残すよい提案。地道な取り組みであるが学びたい。「授業改善マネジメントカード」も具体的な実践事例として評価できる。(兵庫県 長瀬 荘一) ◆香山リカさんの「おとなは我を忘れて、子どもを手放しでほめてみてよいのではないか」という意見に同感です。「子どもをほめ、認め、そして待つ」ことを、教師や親はさらに心がけたいものと思っています。(山形県 佐藤敏彦)

なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。